八海神社一の鳥居から二の鳥居までの約 400 メートルの参道、

両側に立ち並ぶうっそうとした杉並木は 256 本。

県指定の文化財及び天然記念物です。

その中に夫婦杉と呼ばれ、

まるで、長年寄り添い暮らしている

夫婦のような杉の木が多く見られます。

八海神社の主祭神は三柱。

クニサヅチノミコト、

ニニギノミコト、

コノハナサクヤヒメノミコト。

ニニギノミコトとコノハナサクヤヒメノミコトは、夫婦の神様ということもあり

地元の人たちから、「八海神社は夫婦円満にご利益があるよ。」と語られています。

今から十年ほど前（記述当時）に、私は八海神社で結婚式を挙げました。

人々から信仰の対象として、霊山と崇められ親しまれている八海山という山。

それゆえ裾野には「八海神社」と称する神社がたくさん存在します。

その中の一つ、城内山口の八海神社。

口碑では、
「人皇第三十五代皇極天皇の御代、
中臣鎌足公が当国の国司の時、当山ちょうど 1 年前のこの頃に、
八海山に常に彩雲のかかっているのを見て
奇異に思い、従者数十名を引き連れて登山され、
頂上に皇室守護、万年豊楽のため開山し、
国狭槌尊（クニサズチノミコト）
天津彦火瓊杵尊（ニニギノミコト）
木花咲耶姫尊（コノハナサクヤヒメ）をはじめて
お祀りしたのが起源」と伝えられています。

その後、霊峰八海山の裾野に住む人々が
山の神様に祈りを捧げたり
豊作を願ったり
ここで暮らす人たちのために神様をお祀りした場所。

暮らしの中における心のよりどころとして、
八海山の山頂がよく見えるところに小さな石を置き
神様をお祀りしていたと思われ、
今では石の横のひときわ大きい杉のご神木が
その長い年月を物語っています。

豪雪地帯のこの土地では
神様の宿る広い境内を維持するために
夏場の草取り、清掃に始まり、
冬が来る前の雪囲い、雪堀りなど
氏子さんたちが協力をしてくれる。
「この神社の建物も地域の氏子さんたちのものです。」と、
宮司さんに教えていただきました。

鳥居の注連縄は、毎年 12 月の中旬になると
氏子さんたちが自ら制作して参納いたします。

階段を登り神殿の中に入ると、
右側に丸いコロンとした石が目に入ります。
この石も地元の氏子さんが奉納されたもの。

この石は「子もち石」と呼ばれ
安産石として、地元の上村家に長く伝わるもので、
地元の女性は妊娠すると
上村さんのお宅に行って手を合わせ、
その際に、米を供え、その米を持ち帰って食べると
安産になると伝えられてきたそうです。

より多くの方にそのご利益を…ということで、
今では八海神社に祀られ大切に守られています。

このように、地元の人になくてはならない存在の八海神社。
さらに多くの方が訪れるようになったことのひとつには、
「普寛行者」の存在があります。

普寛行者は今の埼玉県のご出身。
寛政 4 年(1792 年）御嶽山大滝口を開削された後、
江戸に出かけたときに「霊峰八海山の道を開削するように」と
夢の中で告げられ、一度も足を踏み入れたこともない
「八海山」に入り
寛政 6 年（1794 年）今の城内口屏風道という
岩肌の険しい断崖絶壁の山道を開削され登頂したそうです。

これにより、信仰の山としての八海山は大衆化されていきました。

普寛行者の開削の後も、行者たちが八海山に貢献し
境内にはその証となる霊神碑がおかれています。

多くの参拝者で賑わう八海神社ですが、
八海山登山のシーズンになると
霊山である八海山の登山の前に訪れる人や
紅葉のシーズンになると
美しい景色を見に「毎年ここに来ているのよ」という方々と
地元だけではなく、県内外から大勢の方が訪れる神域。
近年では人生相談にいらっしゃる方も。

豊かな自然環境に恵まれ、
遥か昔から多くの人々を受け入れてきた
八海神社だからこそ、相談に来る方は心を解放し、
心の重荷を解き放ちリラックスをされて帰れるのでしょう。

特に、八海神社にはじっくりと話を聞いてくださる
女性の宮司さん（記述当時）がいるということも、
相談しやすい環境なのだと思います。

敷地内には、宮司さんのご一家で営むそば店もあります。
手打ちの布海苔そばに、淡味あふれる小鉢もやさしい味わい。
冬はスキーのお客様をお迎えする民宿となり、
訪れる人々を温かく迎え入れてくれます。

もともと神社は、神様の気配が強い場所を選んで
建てられているのですから、
神社に行くだけでも、心が清々しくなり、
元気になれるというのも合点がゆきます。

祈りを捧げるため以外でも、ただただリラックスしたい
そんな時にも八海神社はおすすめです。

ぜひ足を運んでみてください。